

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価（3月22日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	【学力向上進学重点】 ① 生徒の資質・能力を更に伸ばし、進路実現に向けた柔軟で効果的な教育課程編成に取り組む。 ② 高度な課題解決力を育み、深い学びを実現する授業の実践に取り組む。	①新学習指導要領の趣旨を踏まえ、難関国公立大学やスーパーグローバル大学（トップ型）等の上級学校への進学を担保した教育課程編成を推進し、一層の指導の充実を図る。 ②主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進を図る。 ③1人1台端末を効果的に活用するための授業の研究開発を推進し、指導の充実を図る。	①生徒が希望する進路の実現のため、難関国公立大学やスーパーグローバル大学（トップ型）等の上級学校を受験するのに求められる指導を行うための教育課程編成となっているか検証を行う。 ②生徒が希望する進路の実現を目指す授業の展開について他校の情報なども得ながら研究・実践を進める。 ③課題や振り返りなどの双方向のやり取りに1人1台端末を用いるなど効果的に活用していく。	①生徒が本来に望む進路を実現できたか。また、難関国公立大学等の上級学校への受験者率が増加したか。 ②学習の質を一層高める組織的な授業改善の取組の機会を設けることができたか。 ③1人1台端末の効果的な活用について、職員間で事例共有が十分にできたか。	①模試の計画的な実施、3年生向けの大学ガイダンスや2年生向けの大学出張授業、保護者向け進路説明会などを実施した。 ②授業改善研修会を5回行ったほか、11月に公開研究授業を開催し、指導主事5名、他校等から11名の参加があった。 ③1人1台端末活用のための研修を実施した。	①令和7年度からの新課程対応の共通テストへの対応や大学入学者選抜要項の改訂に向けた準備を引き続き進める。 ②引き続き授業研修会を開催していくとともに、授業研修会や研究授業の成果を取りまとめて今後に生かす。 ③引き続き1人1台端末活用の推進に取り組む。	川和高生は目的意識を常にもち、前向きに取り組んでいる姿勢が感じられる。進路希望は自分のことではあるが家庭でも相談にのっていると思う。最大限の取り組みをしてあげてほしい。現状、生徒も学校もしっかり取り組んでいると思う。具体的な高い目標を立て、実現出来ている。	①3年生向けの大学ガイダンスや2年生向けの大学出張授業、保護者向け進路説明会を実施し、積極的に情報共有を行った。新課程への対応については、引き続き準備と情報共有が必要である。 ②授業改善研修会や研究授業を実施し、職員の授業改善への取り組みの意識向上に努めた。 ③1人1台端末活用のための研修を実施した。	①新課程への対応について準備を進めるとともに生徒、保護者への情報共有に努める。 ②授業改善の視点を共有し、引き続き職員の授業改善の取り組みを推進する。 ③1人1台端末活用場面についての共有など職員間での情報交換を円滑に行い、更なる推進に努める。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	【文武両道】 ①メンタルケア等が必要な生徒に対する教育相談支援体制の充実など、安心して安全な学校づくりを進める。 ②部活動や学校行事等を通してリーダーとしての思いやりやたくましさの涵養を図る。	①今年度より全校配置となったSC及びSSWと連携し、生徒の支援体制を構築していく。 ②「高い次元の文武両道」の校是のもと部活動の持続可能な運営体制を整備する。	①学年会で生徒情報を共有し、生活支援GとSCおよびSSWと密に連携を取りながらよりよい支援策を検討・実践していく。 ②改訂された「部活動の方針」に沿った合理的な指導について職員間で共通理解を進める。	①事後措置ではなく、予防的な措置が行えているか。 ②生徒が「高い次元の文武両道」を実現できたか。	①SCやSSWが毎週来校し生徒の相談等に迅速に対応することができている。かながわサポートドックを実施し生徒の課題を把握し対処した。 ②部活動の方針について周知を図るとともに、効果的な部活動運営を追求している。中学生対象の部活動体験を複数回実施し、本校の教育方針の浸透を図った。	①かながわサポートドックの趣旨の浸透や運営の工夫を行う。 ②今後実施時期や形態を検討し、より中学生が参加しやすい形を模索する。	文武両道を目標にしている中で、皆が頑張っている。以前に、保健室に通う生徒、SCに相談する生徒がいることも聞いているが、迅速に対応していただけだと思う。	①SC及びSSWの配置により、教育相談のサポート体制を強化することができた。一方で神奈川県子どもサポートドックをどのように活用していくのか、今後もSC及びSSWと協議しながら安全安心な学校づくりを推進していく。 ②部活動体験やホームページ発信等で「高い次元の文武両道」の浸透が図れた。一方、部活動アンケートを通して課題も把握できたので今後改善を図りたい。	①SSWと校内支援体制について協議をしながら、よりよい支援を模索していく。 ②部活動アンケートの結果を踏まえ、より活動しやすい環境を整える。
3 進路指導・支援	【進路実現】 一人ひとりの進路希望に応じた適切な進路指導の充実を図る。	①的確な情報提供や補習・講習の充実など、組織的な進路指導を推進する。 ②外部模擬試験等の活用を通して、有効な教科指導や進路指導	①生徒のニーズに応じた夏季休業中の補習・補講を実施する。 ②ベネッセ FINE システムを有効活用する。 ②模試の受験科目を絞らせず、	①各教科で、生徒のニーズに合わせた現状に見合った講座の開講を検討できたか。 ②全職員が FINE システムを活用できるように研	①夏季休業中に補習、補講を17講座実施した。 ② FINE システム・compass の教員向け研修会を実施した。 ②面談を通して進	①3年生対象の講座設定を増やすなど、生徒のニーズにあった講座を設定する。 ②模擬試験を進路指導に活用する。	補習・補講は取り組んでいると思うが、学年・部活動別でどのくらいの生徒が参加しているのか知りたい。また、生徒は補習・補講に満足しているのか知りたい。具体的な高い目標を立て、実現出来ている。	①生徒の目的、ニーズに合わせた講座を開講した。夏季・冬季合わせて29講座。延べ501名参加。参加率は9割を超え期間中に欠席をする生徒がいないことから、満足度は高いと考えられる。 ②ベネッセの担当者から、効果的なデータ活用のアドバイスを	①コロナが明け、長期休業中の部活動も盛んになっているので、講座の開講時間にも調整が必要である。 ②継続して研修会を計画・実施する。 ②指導を継続する。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月22日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
		の充実を図る。	幅広い受験に対応できる実力をつけられるよう指導する。 ②各自の端末に、模試受験前の目標、受験後の振り返りの記録をつけるように指導する。	修会を開催できたか。 ②模試を意欲的に受験する態度が養えたか。 ②模試受験に効果的なPDCAサイクルをまわすことができたか。	路に関する共通理解を深めた。 ②ベネッセ「マナビジョン」を活用し、指導している	②低学年から指導を継続する。 ②入力のタイミングを逃さないよう指導し、模試後の復習にも活用するよう指導を継続する。		受けた。 ②教科科目を絞らず、バランスよく学習を進めるよう指導することができた。 ②マナビジョンへの入力の習慣ができてきた。	②入力の声掛けを継続する。	
4	地域等との協働	【連携】 地域との連携を深め、地域に開かれた学校づくりを進める。	①学校の情報発信を強化する。	①ホームページの充実や地域等との交流機会を設ける。	①生徒が地域貢献の意識を高めることができたか。	①各部活動のホームページ発信が進んだ。テレビ取材に対応し「高い次元の文武両道」を広くアピールできた。地域イベントに各部活動が参加している。	①各部活動の活動内容の発信をより積極的に進める。	テレビや新聞で川和高校の特色が周知されてよかった。 コロナ禍で交流や連携が厳しかったと思う。今後の取り組みに期待している。	情報発信については各種媒体で魅力や特色を浸透させることができた。地域との交流においても文化祭や地域イベント、地域貢献活用が再開できたことにより進展が見られた。	引き続き効果的な発信方法を検討し魅力と特色を浸透させる。
5	学校管理 学校運営	【信頼】 ①保護者との連携を深める。 ②不祥事防止の徹底を通じて県民から信頼される学校づくりを進める。	①PTAと協働したり学校生活の様子を公開したりすることで、教育活動の向上を図る。 ②職員がリスクマネジメントの意識を高め、適正に業務を執行する。	①行事・授業等の見学や保護者アンケートの機会を確保する。 ②統合型校務支援システムの効果的な運用を研究する。職員間のコミュニケーションを活性化させる。	①PTAとの協働が円滑に進み、保護者等との連携が深まったか。 ②統合型校務支援システムの課題等について把握し本格運用に向けて準備ができたか。	①7月に授業公開を行い約300名の参加があった。 ②授業の出欠管理を校務支援システムで行うことで効率的で事故の起こりにくい環境が整った。	①次年度の日程について、より適切な時期を検討する。 ②引き続き効率的な運用について研究を進める。	授業公開で学校の状況が分かりよかった。 業務改善については引き続き取り組んでほしい。	①行事や授業公開を通して保護者と学校間の情報交流の機会が増え、良い連携に繋がる成果が得られた。実施する日程についてはよく検討したい。 ②統合型校務支援システムによる出欠管理については、一定の業務改善効果があり、事故防止にもつながったが、運用により把握された課題も整理して改善につなげたい。	①日程については校内で多角的な視点から確認する。 ②業務改善や働き方改革等を通して不祥事防止につなげていきたい。また、人権尊重の精神をさまざまな場面において徹底させ、安全・安心な学校づくりにも努めていく。